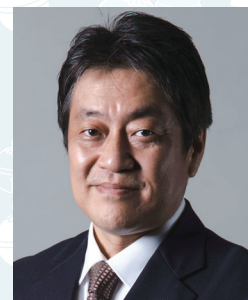


新年のご挨拶

第三工業部会 部会長／運営担当理事
PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD
Managing Director
杉島 淳



シンガポール日本商工会議所会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

改めて2023年を振り返りますと、コロナ禍からの脱却が進み、経済社会活動が完全に正常化する一方、ウクライナ戦争の長期化、経済・安全保障面での米中対立、さらにはイスラエルによるパレスチナ侵攻など、国際情勢が一段と不安定化し、世界経済の不確実性が高まった一年でした。ASEAN経済についても、内需は底堅さを保っているものの、世界経済の減速や資源価格の下落により輸出の低迷が続き、各国の成長ペースは鈍化しました。最大の貿易相手国である中国の成長減速がASEAN諸国に及ぼす影響も少なくありません。第三工業部会には電機・電子業界の皆様が所属されておりますが、世界経済の減速、サプライチェーンにおける課題、エネルギー価格の高騰、為替変動など様々な困難に直面されたのではないかと思います。

また全ての産業において共通しますが、昨今ESG経営の重要性がますます高まってきております。気候変動による災害、生態系への影響は年を追うごとに増大していると実感しますし、この地球規模での環境問題に真剣に取り組むことは、企業としての責務であると同時に、事業を継続するうえでの必要条件になってきています。また企業の社会的責任として人権・労働コンプライアンスについても、欧米での法規制が進み、自社内だけでなくサプライチェーン、取引先までも含めた人権デューデリジェンスが求められるようになってきております。こうした動きにも対応しつつ事業の競争力を高めていくことは大変なチャレンジではありますが、日系企業各社が困難を乗り越え、存在感を強めていくことを期待したいと思います。

昨年の第三工業部会の活動としては、4月に部会総会を開催、5月にはシンガポール経済開発庁(EDB)をお招きし「Advanced Manufacturing - Updates on Singapore's Advanced Manufacturing Ecosystem -」と題してセミナーを開催し、EDBか

ら製造業へのサポート内容や、シンガポールで活躍する製造業の最新事例等をご紹介頂きました。シンガポールにおいて製造業はGDPの21%を占める最大のセクターであり、EDBとして企業同士の協業マッチングや、周辺国とのパートナーリング、人材育成などに力を入れておられるということでした。セミナーには第三工業部会からだけでなく、他の多数の部会からローカルメンバーも含めて約60名の方にご参加頂き、EDBとのネットワークづくり及び会員企業間の交流の良い機会になったのではないかと思います。また6月には第三工業部会の夕食懇親会を開催、9月には金融・保険部会と第三工業部会の共催という形で「風水ツアー&懇親会」にも参加し、若手から経営幹部まで入り混じって交流を深めることができました。3月までの年度内にはさらに他部会との交流を深められるイベントを企画してまいりたいと考えております。

2023年は日ASEAN友好協力50周年の節目の年でもありました。持続可能な社会の実現のため、官民で様々な協創施策や事業活動が展開され、人材交流の促進、デジタルトランスフォーメーション(DX)／グリーントランスフォーメーション(GX)の推進など、日本とASEANの連携強化が進んでまいります。ASEAN諸国では、EC、ライドシェア、電子決済等の分野で多くのスタートアップ企業が誕生しデジタル技術の社会実装が進むなど、DXで日本に先行する動きも見られ、日本企業にとっても学ぶべきところが多くあります。一方、気候変動対策においては、ASEANは日本が脱炭素関連技術やノウハウを積極的に伝授してくれる存在と考え、高い期待を寄せているとの調査結果が出ております。JCCIの活動を通じて、日本とシンガポール・ASEANの経済発展、また存在感が薄れてきていると言われている日本企業を盛り上げていくことに少しでも貢献出来ればと思います。

最後になりますが、皆様のご健勝と、本年が皆様にとって素晴らしい一年になることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。